

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 環境安全・防災課

担当課長名:水野 宏治

事業名	地高ICアクセス 市道天草江北島線 嘉瀬工区			事業区分	地方道	事業主体	佐賀県佐賀市
起終点	自: 佐賀県佐賀市嘉瀬町大字荻野 至: 佐賀県佐賀市鍋島町大字八戸					延長	0.4km
事業概要							
市道天草江北島は、国道207号森林公園前交差点から県道鍋島停車場線流通センター前交差点までの、延長約2.6kmの路線であり、今回整備する区間は、佐賀唐津道路佐賀道路嘉瀬北IC(仮称)の付近から、流通センター前交差点までの0.4kmの区間である。							
整備路線については、JR鍋島駅および貨物駅を中心とした物流関係の企業の集積地があるほか、嘉瀬北IC(仮称)と佐賀市中心部を結ぶ重要な路線となっている。							
R3年度事業化		S8年度都市計画決定 (H30年度変更)		R5年度用地着手		R6年度工事着手	
全体事業費		約8.7億円		事業進捗率		約36%	
計画交通量		5,700～12,300 台/日		供用済延長		- km	
費用対効果分析	B/C	EIRR	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年
	(事業全体)	(事業全体)	5.7 / 7.5億円		9.9 / 9.9億円		
	1.3		(事業費: 5.6 / 7.5億円)		(走行時間短縮便益: 9.4 / 9.4億円)		
	2.0 [2%]	5.6%	維持管理費: 0.04 / 0.04億円		走行経費減少便益: 0.32 / 0.32億円		令和6年
	2.5 [1%]		更新費: - / - 億円		交通事故減少便益: 0.18 / 0.18億円		
	(残事業)	(残事業)	感度分析 (事業全体)		(残事業)		
	1.7		交通量 B/C=1.2～1.8(±10%)		交通量 B/C=1.6～2.4(±10%)		
	2.6 [2%]	7.7%	事業費 B/C=1.2～1.4(±10%)		事業費 B/C=1.6～1.9(±10%)		
3.3 [1%]		事業期間 B/C=1.3～1.3(±20%)		事業期間 B/C=1.7～1.7(±20%)			
事業の効果等							
市道天草江北島線(嘉瀬工区)は、市道大財町北島線、県道鍋島停車場線と佐賀唐津道路(佐賀道路)の嘉瀬北IC(仮称)と連結することで、貨物駅であるJR鍋島駅周辺の物流拠点や、佐賀市中心部を結ぶ路線となることから、地域間の人的交流の拡大に寄与する道路である。							
関係する地方公共団体等の意見							
国道203号バイパス多久・佐賀間整備促進期成会(小城市、佐賀市、多久市)や国道203号佐賀・唐津幹線道路整備促進期成会(唐津市、多久市、佐賀市、小城市、玄海町)が組織され、自治体をはじめとする地域全体による早期整備に向けての要望・期待が大きい。							
事業評価監視委員会の意見							
事業継続を妥当と認める。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等							
周辺環境等に特に変化なし。							
事業の進捗状況、残事業の内容等							
事業進捗率約36%、用地取得進捗率約5%							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等							
残る用地取得について、来年度も継続して進め、今後は早期完了を目指し、構造物設置工事、水路工事および道路改良工事を進めていく。							
施設の構造や工法の変更等							
建設発生土を他事業の盛土材に流用することで、残土処分費の低減を図っていく。							
対応方針		事業継続					
対応方針決定の理由		事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)